

令和2年度 第3回学校運営協議会議事録

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大による影響を勘案し、会議の開催を断念することになりました。代替措置として、各学年、分掌等の進捗状況を学校運営協議会委員の方々に送付し、それについてメールあるいはFAXでいただいた意見をまとめ、学校運営協議会委員の確認、了承を得たものを、「令和2年度 第3回運営協議会議事録」とさせていただきます。

[委員] 田中満公子委員、今西邦夫委員、井上博史委員、坂部弘重委員、
澤尾淳心委員、西端律子委員

【1】

・コロナ禍のなか、学校運営ご苦労さまです。

書面での開催はやはり寂しいですね。Zoomなどオンラインでの開催で、先生方のご苦労や成果、委員のみなさまのご意見を直にききたいと感じました。

・第2回の当方含め、他の委員の方からのご質問に丁寧にご対応いただき、ありがとうございます。状況がよくわかりました。来年度に向けて、状況が読めない中ではありますが、学校として、生徒たちのためにいろいろ考えておられることがよくわかりました。

特にGIGAスクール関連で、一人1台端末が整うのは来年度途中とのこと、新しい学習環境として、授業や家庭学習に位置付けていくことが肝要かと思います。

また、先生方の負担も軽くなるように、できることから校務の情報化なども、すすめていただければと思います。

さらに、配慮が必要な生徒も一定数いるかと思しますので、さらなる活用を期待する所存です。教育庁との相談になるかとは思いますが、この学校運営協議会も、可能であるならオンラインで、とも思います。ご検討方、よろしくお願いいたします。

➤ 新型コロナ禍を受けて、府の方でも学校運営協議会にリモートからの参加も可能とするよう規定を改定しています。今年度は、準備や環境が整わず書面開催となってしまいましたが、来年度は委員の皆様のご都合も伺いながら、オンライン開催についても検討していきたいと考えています。

【2】

コロナ感染拡大防止対策で、教職員の皆様、生徒の皆様も大変な1年間でした。

来年度もどうなるかはわかりませんが、平常の学校生活が送れればと祈っています。

これからも地域の誇れる高校として頑張ってください。

➤ 応援ありがとうございます。ご期待に沿えるようにできる限りのことをしていきます。

【3】

令和2年度はほぼ丸一年「ウィズコロナ」の不安困難を強いられる中で、決して屈することなく、三国丘高等学校の教育理念、学校経営計画を実施できましたのは、校長先生、教頭先生、教職員先生方の並ならぬ努力の結果だと思えます。

どんな時でも三丘生のひたむきな姿勢、力強く支え見守るPTA、保護者、三丘同窓会、三丘後援会・・・皆が一丸となって同じ方向で頑張りました。

三国丘高等学校の三丘スピリットの底力を証明した一年だったのではと感じております。

令和3年度、これからも三国丘高等学校が受け継いで来られました教養カリキュラムに加えて、時代のトレンドに沿い、創意工夫をこらした新しいプログラムに挑戦する姿勢を維持してほしいです。

- 2年間三丘生と過ごしてきて、入学時はまだおぼつかない感じの74期の生徒たちがたくましく成長していく姿に感心しています。卒業した73期生については、たくましさに加え、自信を身に纏ったように感じています。これは、授業での学習活動に加え、課題研究、学校行事や部活動に取り組むことによって、確実に三丘スピリットが育まれているからだと思えます。またその成長は、学校の中の指導や支援だけでなく、同窓会、PTA、地域のご関係の方々等、多くの皆様方のご支援があつてのことと考えています。本当にありがとうございます。

来年度の挑戦といたしましては、SSHのNASAツアーを実施時期をずらして開催できないか検討したり、米国リーハイ大学との連携をさらに深め、昨年度は1本だったオンライン海外研修を2本に増やしたりといったことを検討しております。

【4】

「令和2年度 学校評価」について

・2月実施のアンケート結果が未集計となっている項目があるが、集計結果をすべてまとめた後、各委員に送っていただく方がよい。

- 例年3月末に最終版を作成しております。令和3年度第1回学校運営協議会におきまして、委員のみなさまにお示しできるかと思えます。

・2(3)③生徒満足度が大幅に向上しています。コロナ禍でオンライン授業等の準備もたいへんだったと思いますが、先生方のご苦勞が報われたのではないのでしょうか。

- 4月当初は少し出遅れましたが、4月、5月の臨時休業の際に、先生方が動画を編集して配信したことは、不安に感じていた生徒に元気を与えることができたのではないかと考えています。また、学校再開後も授業に加え、講習や個別の指導にモチベーションを維持しつつ、主体的に参加しており、理解度が増したことでさらにモチベーションが高まるといった好循環が生まれたものと感じています。土曜授業の時でも、朝1,2年生と同じ時間帯に登校する3年生を多く見かけました。

・ 4 (8) ⑤「保護者から意見をきく機会を多く持っている」に否定的な意見が昨年度より増えている理由はどのように分析しているのでしょうか？分析結果に対して、来年度はどのような対策を考えているのでしょうか？

➤ 学校としては、学年連絡会のオンデマンド配信、文化祭の舞台の記録動画配信など、PTAの皆様をはじめとする保護者のご意見も取り入れながら発信してきたつもりですが、新型コロナ対応により、授業公開の中止など学校にお越しいただく機会が減少したことが一番大きな要因と考えています。

「令和3年度 学校経営計画」について

・ 中期的目標では「1年間の読書冊数を5冊以上とした」と書かれてありますが、本年度の取組内容及び自己評価の2 (3) ⑥では「学期に5冊以上読書」となっています。整合性を取る必要があるのではないのでしょうか。

➤ 年間に5冊以上読書と訂正しました。ご指摘いただき、ありがとうございました。

・ SGPもSSH同様、皆さんよく頑張ったと思います。提案内容も似たものはなく、各班でよく考え、議論されたことが想像され、素晴らしいと思います。課題研究において、経費についても考慮したのは、提案した内容に実現性をもたせるという点で非常に良かったのではないのでしょうか。

➤ これまで、日本政策金融公庫の高校生ビジネスグランプリへのエントリーを念頭に行ってきましたが、今年は地域ブロック内での小規模開催となりました。しかしながら、今回様々なグループの発表の場を求めて、他の企業や民間団体主催の同趣旨のコンクール等への参加も行いました。ある班は文部科学省・筑波大学共催の全国高校生フォーラムでは全国2位にあたる審査委員長賞を受賞、ある班はソーシャルビジネスコンテストで全国193チーム中、全国2位の栄誉を勝ち取ることができました。

【5】

「学校経営計画及び学校評価」について

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会の意見】

「B 否定的意見」で記述されておりますように、大学受験にあまりとらわれない学習活動（生徒38.8% 保護者36.5%）は、つまりもっと大学受験にとらわれた学習活動をしてほしい、という生徒、保護者が4割弱存在する、ということ。また一方で、大学受験に必要な科目にもっと重点をおいて授業をしてほしいということに対して否定的な保護者も同程度存在する（31.5%）。ということは、両方のニーズがあるといえます。

この傾向は長年続けて見られるようですが、この質問項目が設定された年度に遡り経年変化を分析し、その理由を検証されてもいいのではないのでしょうか。このことに対して二立背反という軸ではない学校の方針を、主体的・対話的に検討する深いプロセスが重要であると考えます。それ自体が教職員研修になるのではないのでしょうか。

- ▶ ご提案いただいているとおり、今回経年変化を別途分析しました。それによりますと年を経るごとに双方の否定的な意見の数値が減少していることが見て取れます。以前よりも生徒・保護者のニーズに合ったが授業が行えているとの分析も可能ですが、このことがどういう意味を持つのかはこの項目単独で判断するのではなく、他の項目の数値とも合わせて総合的に判断していく方がよいと考えています。とりわけ課題研究は教科横断的な取組みとなっており、その分野において三国丘高校は他の GLHS の中でも牽引している位置にあると考えています。私としては、課題研究の意義を生徒たちに繰り返し伝えることで、学ぶことの楽しさ、意義に気づいてもらい、日常の学習活動にさらに主体的に取り組めるようにしていきたいと考えています。今後大学入学共通テストが思考力、判断力を問われる問題傾向となっていくならば、三国丘の強みとして発信していくことが可能と考えています。今年度の課題研究の発表会は文理学科のみの募集となり、1・2年生の全員参加となってから2年目となります。去年の発表会のレベルの高さに鳥肌が立つような思いでしたが、今年度新型コロナ対応により、体育館での全体会は1年生のみとし、分科会は1・2年生の各教室に、2年生の各グループが発表に出向くという形を取りました。自分の聞きたい発表が聴けないというデメリットはあるものの、各 HR 教室で8つのグループの研究発表を、一つ一つ集中して聴けるこの取組みは今年度禍を転じて福と為した取組みの一つであると振り返っています。特に1年生への影響は分かりやすく、全国レベル等のコンクール等をめざすチャレンジ部門を希望する生徒が大幅に減り、研究発表する部門を希望する生徒が増えました。

【保護者からの意見を聞く 否定的な回答が多い (R2 21.1)】

保護者の意見を聞く、ということに対して、三国丘高校では教員の否定的な回答が多い (R2 21.1) 中で、上記のような学校教育自己診断からの意見聴取は大きな意味があると思います。学校の教育活動に対して、保護者、生徒の意見を吸い上げ組み込んでいく体制の構築は、まだまだ日本の学校は脆弱ですが、一方で欧米ではすでに体制 (ヒト・モノ・カネ) が構築されている学校が多いと聞いています。情報収集のための様々なチャンネルからのエビデンスに基づいた分析こそ、次の大きな一歩かと考えます。絵に描いたようにはいきませんが、三国丘高校がその一歩を踏み出す意義は、府下でも全国的にも大きいです。生徒の学びに学校経営が追いついていくことが求められていると考えます。分析するマンパワーが欲しいですね。

また、コース選択の時期など幾つかの個所で、保護者や生徒から疑義が出されていない、という説明があります。これは疑義がないのか、あるのなら誰にどの機会にどのように表明すればいいのかわからないケースも想定されます。それをふまえて、小さな声でも謙虚に耳を傾ける必要があると考えます。

- ▶ 日常的には PTA の役員の方々との意見交換の中で、保護者の方の考えておられること、感じておられることを把握するようにしています。PTA 役員の方々も小さな保護者の声も届けていただいていると考えていますが、十分であるとは考えていません。今後ともできるだけ多くのチャンネルを通じて声を集めていきたいと考えています。

【カリキュラムマネジメント】

授業で（実は学校経営でも）、カリキュラムマネジメント（以下、CM）の視点は、三国丘高校で有効と考えます。すでに全生徒が「課題研究」でCM的な教科統合型の授業実践をされておられますし、その軸にSGHの授業が位置していますし、今後はさらに相乗的に質的に充実していかれること間違いないと推察します。今までを第1段階とすると、第2段階として日々の教科学習にもCMが一般的になっていくようなことになればいいなと考えます。

- CMを意識した教科学習という点では、理科の授業では体感実験と称した「自分で実験手法を考える実験」を実施して知識を知恵に変えて考えを深める取り組みをしたり、英語科では時事問題をテーマにした内容を学んだあと班で英語でプレゼンテーションを行い、その後生徒同士で英語で質疑応答するといった授業を行ったりと、生徒に身に付けてほしい力の育成を前提にカリキュラムを構築しています。それらの取り組みの成果か、近年理系の生徒が学部選びをしっかりと考えたうえで進学する生徒が増えたことや、大学に行ってから他の大学生が英語でプレゼンをすることが苦手であることを知り、「英語でプレゼン」が当たり前になっている三国丘の英語の授業が普通じゃないと知ったという卒業生の喜びの声を聞いたりします。大学受験という大きな目標が最後に待ち受けている本校では教科横断型などの取り組みなどはなかなか難しいこともありますが、教科学習、課題研究、三丘セミナーなどの講義などが相乗効果として機能しているのではないかと考えています。また、進路指導部では現在、1、2年生の実力テストおよび3年生の校内模試について、その意義づけや実施方法を再度教科に検討を促しているところです。三丘生の力をトータルでどう育てていくか、新カリに対応したCMをしっかりと構築していきたいと思えます。

【総じて】

「王道を歩く人間」と「とんがったリーダー」の両面をもつ人材の育成も、二立背反ではない、正解のない、解決するのに時間のかかるテーマであると考えます。このような視点の獲得に対して、全教職員対象の研修があればいいのにと感じます。

- 新しい教育課程の始まりとともに観点別の評価も始まります。新カリにおいてどのような授業がGLHS校としてふさわしいのかについて考えていく良い機会と捉え、4月当初に「観点別評価」に関する教員研修を予定しています。

また、経験年数の浅い教員が増えておりますので校内研修を充実させるとともに、様々な知見も踏まえ、教員研修などで生かしていけたらと思っております。